

見附市図書館だより

万華鏡 ～成人式記念号～

2007・5・3

こんなときこそ図書館へ

お菓子をつくる

ブログを書く

映画を観る

一人暮らしをはじめる

部屋のレイアウトを変える

仕事を知る

レポートを書く

サッカーを極める

写真を撮る

雑誌を読む

音楽を聴く

旅行に行く

携帯電話やインターネットを使って、
いつ・どこからでも

- 開館時間や休館日を調べる
- 新着図書や貸出・予約の多い本を知る
- 読みたい本を探す
- 貸出中の本を予約する（パスワードを図書館で登録してください）
- メールで予約本のお知らせを受け取る

など、いろいろなことに利用できます。アクセスしてみてください。

見附市図書館ホームページアドレス

<http://www.lib.mitsuke.niigata.jp/>

携帯からは

<http://www.lib.mitsuke.niigata.jp/i/>



- 上段左から 「Soccer ai」日刊スポーツ出版社 「MORE」集英社
- 「MEN'S NON-NO」集英社 「POPEYE」マガジンハウス
- 中段左から 「BACKSTAGE PASS」シンコーミュージックエンターテイメント
- 「ダ・ヴァンチ」メディアファクトリー 「新潟Komachi」Newsline
- 「Can Cam」小学館
- 下段左から 『本格ミステリーワールド 2007』島田荘司監修 南雲堂
- 『家日和』奥田英朗著 集英社
- 『プロフェッショナル 仕事の流儀』茂木健一郎ほか編 日本放送出版協会
- 『陰日向に咲く』劇団ひとり著 幻冬舎
- 『不都合な真実』アル・ゴア著 ランダムハウス講談社

開館時間 火曜日～金曜日 9:30～21:00 **休館日** 月曜日（祝日と重なるときは翌日の火曜日）
土・日曜日、祝日 9:30～17:00 第2金曜日、年末年始、特別整理期間、年度末

利用方法

- 貸出は、ひとり10点、2週間以内。貸出カードと共にカウンターへお持ちください。
- 長い間利用していないカードでも、そのままお持ちください。更新手続きをしてご利用いただけます。
- 紛失した場合は、再発行することが出来ます。初めての方は、申請書を記入し、免許証等、現住所の確認できるものと一緒にカウンターへお持ちください。すぐにカードをお作りします。
- 返すときは、カウンターが入り口にあるブックポストへ入れてください。

知りたいことにたどり着けない時、どうぞ気軽に職員に声をかけてください。

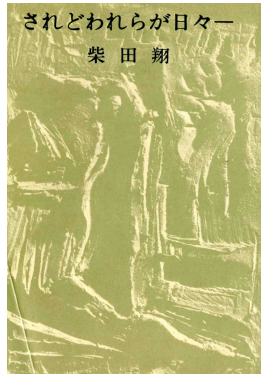
連休中も開館しています



見附市の各方面でご活躍の方々から、「私の好きな本」「20歳に薦める本」を推薦していただきました。

20歳は大人へのスタート。
今までに読んだことのない本も読んでみませんか。図書館に用意してあります。ぜひ、手に取ってみてください。

見附印刷株式会社 専務取締役 淡路けい子



柴田 翔 / 著
(文芸春秋社)

私が成人式を迎えたのは、学生運動の余燼がまだ色濃く残る頃。そんな若者の苦悩を描いた柴田翔の『されどわれらが日々』に、強く惹きつけられた。

そうしている内、私は次第に（活字中毒者）となっていく。本の中の言葉に折々救われながら。応じてくれたの本はその都度色々。変わってもいったので（この1冊）と言うのは難しい。

そんな中、一番読んだのは田辺聖子さんの本。（人生はポチポチ。まずは楽しもう！）という生き方にホッとさせられ、ここまで至った。

皆さんも迷ったら本を、悩んだら図書館に行ってみよう。真直な答えは見出せなくても、必ず何かを受け止めるはず。長い人生、本は心強い友であり、味方であってくれるから。

株式会社笹原建設 代表取締役社長 笹原進一



『国家の品格』
藤原 正彦 / 著
(新潮社)

数学者の藤原正彦さんは「どんなに美しい理論が通っていたとしても、出発点が間違っていれば結論も間違っている」として、現在の日本に蔓延する市場原理主義などの風潮を批判し、日本古来の武士道精神復活を唱えています。

実力主義、論理合理主義、民主主義、平等、国際化など多くの論客がその重要性を叫んでいるものを切捨て、品格ある古き良き日本に戻ることを提言し、日本は世界で唯一の「情緒と形の文化」である。国際化という名のアメリカ化に踊らされてきた日本人は、この誇るべき「国柄」を長らく忘れてきた。いま日本に必要なのは、論理よりも情緒、英語よりも国語、民主主義よりも武士道精神であり、「国家の品格」を取り戻すことである、と説いています。

言っていることはわかりますが、おそらくこの主張は若い人には支持されないと思います。しかしながら逆説的な観点からも一読されることをお勧めいたします。

株式会社プロデュース 代表取締役社長 佐藤英児



『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』
山田 真哉 / 著
(光文社)

見附市の新成人の皆様に推薦したい本として、同書を挙げたいと思います。

一般的に社会人になると、学業との違いとして社会への経済活動に参加するために、損益の意識が求められます。この本は、会計学の考え方を身近な例に置き換えて解説している本です。

会計学というものは専門性が高い分野であり、敬遠されることが良く見られます。しかしどんな職種であっても、それにより利益を求める限り「会計」から逃れることはできません。例えば「手形」とは何か、「キャッシュフロー」がなぜ重要か。会計の本質的な考え方は決して難しいものではありません。どうも会計、数字は良く分からない、という方はぜひ一読して下さい。数字に対する苦手意識を取り去る一助になるとと思います。

株式会社マルイ 代表取締役社長 清水辰雄



『生き方』
稲盛 和夫 / 著
(サンマーク出版)

みなさんは自分の「夢」をお持ちでしょうか？その「夢」の実現のために、何かをなさっているでしょうか？

また、みなさんは、自分の「人生」をどんな「人生」にしたいのでしょうか？

自分の人生は、自分で作っていくしかありません。どんな人生であれ「自分が選択した結果」の人生です。

みなさんは、まだ、どんな選択もすることが可能です。いかようにも自分の人生を作っていく行けるのです。

あなたは、どんな「人生」を選択するのでしょうか？

そんな事を考えた時に一助になるのがこの『生き方』という本です。是非、ご一読いただければと思います。

株式会社三本テキストスタイル 専務取締役 三本由喜枝



『峠』
司馬 遼太郎 / 著
(新潮社)

それほど本を読まない私に印象深く残っている本。四十二歳で亡くなった私の弟が、私の長男に読んでみないかと薦め、息子が感銘し、私に読んだらと渡した本。

河井継之助を描いた、司馬遼太郎の『峠』です。

幕末動乱の時代、長岡藩の執政となり藩の全権を担った人物。頭脳明晰、常に先の展開を見通す先見性に優れ、誰よりも早く徳川幕府の崩壊を予期していた。しかし何故か長岡藩を上げて無謀な政府軍との戦いを決断。なぜ彼が戦う道を選んだのか、彼の信念・理念・理想を皆さんが解いてみて下さい。

うすらいでいく心の大切さ、思いやり、自分の考えと逆に流される時代だからこそ、自分の信念・考えを進みたい。自分が間違っていたら方向修正が出来る。

私は、そんな事をこの本で感じました。